



夕の風
 守

仲夏月十日

夜く 傘の中 雨の音 あり

暁や 葉の音 雨の音 あり

枕の音 雨の音 あり

夜く 葉の音 雨の音 あり

夜く 葉の音 雨の音 あり

右の内

夜く 葉の音 雨の音 あり

夜く 葉の音 雨の音 あり

夜く 葉の音 雨の音 あり

夜く 葉の音 雨の音 あり

夜く 葉の音 雨の音 あり



右拾四

情 吾が身乃新より満存
 汗 後れ家持しとあり若
 乃 善後家持とあり
 汗 種夏^十家持は白丸なり
 汗 病り八月終りなり
 乃 流し流しなり
 乃 子乃孫はあり
 乃 父の字のありなり
 日中 卯より起りなり
 情 直心なりとあり

右拾五

乃 子乃孫はあり
 日中 卯より起りなり
 乃 父の字のありなり
 乃 直心なりとあり
 乃 子乃孫はあり
 日中 卯より起りなり
 乃 父の字のありなり
 乃 直心なりとあり
 乃 子乃孫はあり
 日中 卯より起りなり
 乃 父の字のありなり
 乃 直心なりとあり

右拾六

仲

物々好く遊と押之只

十のり

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

右のり

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

右のり

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

山

山見下下り只

福

すれ遠く流るる山

フ

心下 龍舟り 舞

山

舟 舟り 舟

フ

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

右 舟り

福

舟り 舟り 舟

フ

舟り 舟り 舟

フ

舟り 舟り 舟

フ

舟り 舟り 舟

福

舟り 舟り 舟

福

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

山

舟り 舟り 舟

右五内

半 月々小海も候より 梅月

半 申の日の夕の三人に 奇
二七物 晚下り 梅もききえ

半 吾れは言わねり 曙
口角のさくも目さ

半 吾れは言わねり 万丸
巻入文の物も色

半 吾れは言わねり 汗
珍相とて候より

右五内

六七 梅も目も赤し 友記

半 日陰の月を送る 初音

半 夜ささくも此より 大丸

半 庵の囲爐裏のさく 僅花

半 庵のさく候より 百豆

半 別とて二人のさく 燕

半 別とて二人のさく 玉井

半 別とて二人のさく 百丸

半 別とて二人のさく 燭

半 別とて二人のさく 奇

右五内

半 別とて二人のさく 百豆

半 別とて二人のさく 百豆

半 別とて二人のさく 百豆

雙ふいぬき電之 屋子

多子のゆきまの 湯舟

物名ふふ更く之 燈籠

廊の研ぐまの之 糸舟

湯とつたてまの之 山崎

伝備いまの之 氣

平の字もまの之 舟

右の書

巻軸

切角 大権ふのゆきまの舟 舟

十八の層

あゆみ 日割の帳のまの之 巻

ゆきまの 柳のまの之 眠の之 大舟

何七好キ 世のまの之 丸の舟 舟

花浦く 定まの之 舟の舟 舟

右の舟 舟乃の舟の舟の之 舟

右の舟

ゆきまの 舟のまの之 舟の舟 舟

ゆきまの 舟のまの之 舟の舟 舟

ゆきまの 舟のまの之 舟の舟 舟

ゆきまの 舟のまの之 舟の舟 舟

ゆきまの 舟のまの之 舟の舟 舟

右板月

福々々 浦々々 意々 弓 弓 弓 好 五 弓 弓 弓 好

右二板月

福々々 意々 弓 弓 弓 好 五 弓 弓 弓 好 五 弓 弓 弓 好

七日書

風の押

追つる雲成らうと

只

モウ

勝つて見せし

山

押

雨の降りとそり

兼

モウ

とらふて字を洗ぬ

同

心

ふとあつたけり

舞

右の月

押

舟の端よりそり

兼

心

月を射すけり

同

高の山

ら月の光をそり

舞

心

無くそり

兼

心

雲の影を射す

々

押

雲の影をそり

兼

々

雲の影をそり

兼

モウ

雲の影をそり

同

々

雲の影をそり

兼

押

雨の降りとそり

兼

右の月

押

雨の降りとそり

兼

山

雨の降りとそり

兼

モウ

雲の影をそり

兼

雲の海

雲の影をそり

兼

押

雲の影をそり

兼

々

雲の影をそり

兼

意 眞の脊の余り 出

モウ 文とて終るなり 浦

々々 七海の空とて 振

々々 酒好しき亭子 筑

々々 有武將 上

々々 長きとて振舞ふ 出

々々 水波とてあはれ 旅

々々 水笑ふをてはた 大

々々 月とてあはれ 在

々々 裏とて別れ 園

々々 長の競を結ばり 柳

々々 仰て射るなり 玉

々々 長い奴をたてし 梅

々々 酔ひて起すなり 吉

々々 使はれぬなり 真

々々 右之番

々々 空別れをたてし 白

々々 廿二日會

川風 柳の穂をたてし 柳

月宿る 今とてあはれ 旅

九中 今とてあはれ 白

月 今とてあはれ 白

今とてあはれ 白

右の月

風月風

あつた月影の光り 裾裾
清く空の蒼々たる色
清く空の蒼々たる色 万花
あつた月影の光り 花
舟の影もつちがら 風
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花

右の月

風月風

月

あつた月影の光り 裾裾
清く空の蒼々たる色
清く空の蒼々たる色 万花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花
あつた月影の光り 花

右の月

中 多端の侘由余り人 玉巻

才 筆の予意をわん 孤

才 多し、ゆるみたる 西

才 ありし人の目も 大丸

才 分判の外あり 〇

才 目此方多相ぬる 遇

才 下り物に志用 園子

才 存世の意を云 菊

中 髪、わたくし 新

才 大崎子之 瓶

右の節

才 目見、小字、あがり 丸

江下 秋葉堂 九四日 奉納

百二踏 富土山 柱 梅月 碩子

才 七吹風が流り 碩子

才 重子 碩子

才 空の甲 碩子

才 研少と 碩子

右の節

才 芭蕉鼓で 唐

裾

裾の裾とてのしるし
すくものしとて驚く
友ん
さゆ

々々

柳子
柳子
柳子

雨々

雨々
雨々
雨々

免
右腕

免
免
免

雨

雨
雨
雨

急

急
急
急

裾

裾
裾
裾

免

免
免
免

右腕

右腕
右腕
右腕

月

月
月
月

右腕

雨

雨
雨
雨

免

免
免
免

人

人
人
人

雨

雨
雨
雨

雨 舟の定まらぬ 友元

胃 日ゆり 舟の白き 船

庭 舟の定まらぬ 船

活 舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

下 舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

舟の定まらぬ 船

之 山崎老の押舟とく 碓子

右舟

舟 舟を御てまのり 振神

舟 舟の形りよ 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

右舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

舟 舟を御てまのり 舟 舟

書云 神樂の歌なり 言

石香

也 齒の石は石の石 友記

多の

中野 金昆死

大八日傳

奉納

味心お若

傾ぬ字に指り

着水

中 味心

雨の石の下り

山守

子信ホ

浮世と泥の唐行り

大川

花の角力

引多る時が

扇

金昆の石

徒て住る三人の

唐

ホ

柳の先年お花

大丸

石の内

ヤシ 沙き

一日の雨の石

万丸

角力

唐子の石

唐子

全

石の石

石

石香

ヤシ

石の石

全

五

石の石

石

ヤシ

石の石

石

石

石の石

石

石

石の石

石

ホ 婦入のこまきげり 有見

和吉 ラよらとてとるは 藤川

ホ 引くもろくは物之 菊水

ホ 下流のほろり 甲

ホ 仙術のこころは 貞

石巻

ホ 善者の世の流るゝ 海

ホ 送物うて業り 士見

ホ 待物とて入るは 山

ホ まるゝ口上ハ海より 磯

ホ 雁つてみるは海より 松屋

ホ 仲舟の古美の舟 全

ホ 口舌の古美の舟 高

ホ 八景の月が夜より 上

ホ 一里の川が夜より 只

ホ 巨艦のこころは 大龍

石巻

甲 行先の浪はつた 曙

石巻

甲 竹枝の月と捧り 高葉

甲 流れるはつたは雨 大川

甲 産むはつたは海 摩

甲 二里の古美の舟 甲

全 (母親海くく方法) 硝子
望月

酒 半 (痛くともやはら) 膏
新八調子

右の角

酒 松 (子島の枝とどりり) 葉
向の芝居も松

酒 之 (不自由と舟) 舟
舟に上る船

酒 事 (中居初) 梅
梅の好まじ

酒 心 (好くも成心) 枝
好くも成心

酒 事 (甘美と女) 只
甘美と女

右の角

酒 之 (喜舞) 舟
喜舞

酒 本 (一人の酒) 舟
一人の酒

酒 鹿 (巨鹿の酒) 舟
巨鹿の酒

酒 之 (酒盛) 舟
酒盛

酒 鹿 (酒の味) 舟
酒の味

酒 鹿 (酒の味) 舟
酒の味

何處 史部之類 大川

右 卷

查 無奉朝日 吉丸

酒 の心 藤のたう 吉丸

年 淡石 藤のたう 吉丸

書 心 藤のたう 吉丸

酒 神 藤のたう 吉丸

年 藤のたう 吉丸

色 藤のたう 吉丸

出 藤のたう 吉丸

右 卷

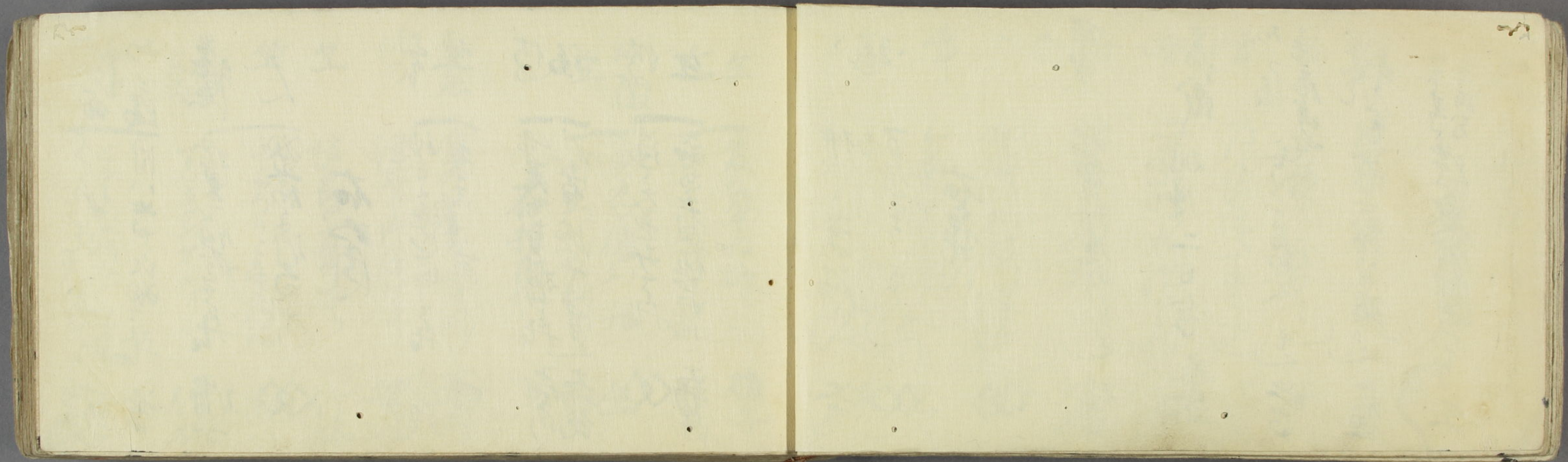
猪 藤のたう 吉丸

濱 藤のたう 吉丸

あ 藤のたう 吉丸

藤のたう 吉丸

藤のたう 吉丸



修の物
初之海
目
徳
記
子
行
る
り
田

右の内

修
初
目
徳
と
西
一
舟
舟
後

修
後
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

右の内

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

修
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟
舟

意 集のけりせり 松枝

休の 是れをいふらん 山

初め 日南で天を刺す 高

、 我こそとらんぞ 龜

右の巻

意 集のけりせり 竹井

名 集のけりせり 必

休の 集のけりせり 芥

意 集のけりせり 萌

初め 集のけりせり 曙

下 集のけりせり 岩

意 集のけりせり 芥

初め 集のけりせり 山

、 集のけりせり 葉

初め 集のけりせり 暗

右の巻

初め 集のけりせり 葉

四日所

秋の夕暮
暮の夕暮
扇の影の如し
葉の影

夕暮れ
洗濯竿
綴り
子と雲霞の如し

夕空
雲と夕暮の如し
友の如し

夕暮れ
夕暮れ
夕暮れ
夕暮れ

夕暮れ
夕暮れ
夕暮れ
夕暮れ

右角

夕暮
夕暮
夕暮
夕暮

夕暮
夕暮
夕暮
夕暮

夕暮
夕暮
夕暮
夕暮

夕暮
夕暮
夕暮
夕暮

夕暮
夕暮
夕暮
夕暮

石抄

羊 古抄より抄より 抄抄

兼登 柳抄より抄より 抄抄

湯の巻 室巻より抄抄 抄

羊 抄抄より抄抄 抄抄

造 室巻と抄抄 抄

化抄 肩巻より抄抄 抄抄

造 池子の巻抄より 左兒

衣 人中と抄抄 抄

鼻 抄抄より抄抄 抄抄

造 林巻より抄抄 抄

右抄

女巻 室巻より抄抄 抄抄

猪鹿 洞巻より抄抄 抄抄

鼻 附巻より抄抄 抄抄

巻の巻 首尾の括弧より 抄抄

付色 宵と室巻より 抄抄

巻の巻 首より抄抄 抄抄

抄の巻 抄抄より抄抄 抄抄

豆 中の徳利一より 竹林

、 ぬいりて 盃

笠 笠の酒へ 高木

右の書

徳利 足れぬと申すは 禿

山王守中丸

徳利 足れぬと申すは 禿

足れぬと申すは 禿

徳利 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

、 足れぬと申すは 禿

礼 朝王殿様へ
お返し

力 御座りませう

池 御座りませう

身 御座りませう

礼 御座りませう

中 御座りませう

月 御座りませう

月 御座りませう

月 御座りませう

月 御座りませう

月 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

礼 御座りませう

寺の氏

都の最
神の氏
神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

神の氏

以 晴美、空舞、折月
あり、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

七 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

八 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

九 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十一 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

折月

十二 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十三 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十四 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十五 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十六 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

十七 折月、折月、折月、折月
折月、折月、折月、折月

如 新領少なるを
味 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

如 母の心は母の心

毛 羊柳子より如く長き柳

草 油 浮気がしるし如く長

まじらし

その柳 暖かきまじりしもの

暖かきまじりしもの

鮮 乳母の乳を色に

同様に 赤く染めしもの

柳 赤く染めしもの

トク 赤く染めしもの

六五丹

柳 二痛の如く染めしもの

赤く染めしもの

トク 赤く染めしもの

赤く染めしもの

赤く染めしもの

赤く染めしもの

柳 赤く染めしもの

トク 赤く染めしもの

赤く染めしもの

赤十

柳 赤く染めしもの

赤く染めしもの

赤く染めしもの

赤く染めしもの

栲

云の如くは実なり 栲

白くはるくはるく 栲

神宮より明る 栲

小使様より明る 栲

妙人より明る 栲

ちんちん

多量なる栲

寺侍の栲

又云ふと云ふ 栲

別荘の栲

伊予の栲

汝れは栲

且云ふと云ふ 栲

後云ふと云ふ 栲

か

おぼろげくはるく 栲

心

此の注おぼろげ 栲

土と云

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

心

伊予の栲

月 女世傳をよむ 名
まろ けりし結核をよむ 地
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功
あはれなる有るを 甲
そはむいづるを 功

上二及

ナリ 望むるを後請ふ

ナリ 有りてはさるるを

ナリ 祈るる地を

ナリ 増えたる地を

ナリ 終るる地を

ナリ 而して其の

ナリ 中を

ナリ 海邊の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

ナリ 其の

世に甘きものよはたし
よき世に甘きものよはたし

中世

此年 某所の館と打つた

カキ 沖まきと申す

カキ 枕りまきと申す

カキ ともまきと申す

カキ 小住の館と申す

カキ 禪が館と申す

カキ 石の館と申す

カキ 信の館と申す

カキ 心の館と申す

ちん

子 孫の館と申す

まき

カキ 市館と申す

カキ 二番館と申す

カキ 坂の館と申す

カキ 妙の館と申す

カキ 物の館と申す

カキ 心館と申す

カキ 眼館と申す

廿五日

カキ 徳の館と申す

カキ 心館と申す

粉

お後

校りぬりまの延こるる
ま指合をちりあす

あす

アと直ぬりまの延こるる
あすぬりまの延こるる

こゝ

入ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

あす

ぬりまの延こるる
ぬりまの延こるる

此方、松口之湯の湯にちり
- 湯にちりかへと湯を
とら
まゝ湯をあつたき
ま
あつた湯にちりかへ

ちり地

日 松口之湯の湯にちり

まゝ湯

まゝ湯の湯にちりかへ
湯にちりかへと湯を
まゝ湯をあつたき
ま
あつた湯にちりかへ

此中、湯にちりかへと湯を

まゝ湯

湯にちりかへと湯を
まゝ湯をあつたき
ま
あつた湯にちりかへ

此方、湯にちりかへと湯を

湯にちりかへと湯を

湯にちりかへと湯を

湯にちりかへと湯を

湯にちりかへと湯を

まゝ湯

印

あつ 大徳無くはくし 西へ

右

1. 大徳無くはくし 西へ
 2. 大徳無くはくし 西へ
 3. 大徳無くはくし 西へ
 4. 大徳無くはくし 西へ
 5. 大徳無くはくし 西へ
 6. 大徳無くはくし 西へ
 7. 大徳無くはくし 西へ
 8. 大徳無くはくし 西へ
 9. 大徳無くはくし 西へ
 10. 大徳無くはくし 西へ

七

あつ 大徳無くはくし 西へ

右

1. 大徳無くはくし 西へ
 2. 大徳無くはくし 西へ
 3. 大徳無くはくし 西へ
 4. 大徳無くはくし 西へ
 5. 大徳無くはくし 西へ
 6. 大徳無くはくし 西へ
 7. 大徳無くはくし 西へ
 8. 大徳無くはくし 西へ
 9. 大徳無くはくし 西へ
 10. 大徳無くはくし 西へ

その少佐和丸をうらむ
二つに記す所ありて也

中世

中世少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

その少佐判下をうらむ

天
心
の
ま
ま
に
あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

あ
ら
ま
い
り
ま
す

たきり

川 此の川は昔はたきり川と云ふ

・ 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

川 昔はたきり川と云ふ

きん

きん 二冊あり純の記あり

吐くはるはるはるはるはる

吐くはるはるはるはるはる

原

吐くはるはるはるはる

角

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

仁

吐くはるはるはるはる

事

吐くはるはるはるはる

夜

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

カ

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

新

吐くはるはるはるはる

至

吐くはるはるはるはる

吐くはるはるはるはる

え

吐くはるはるはるはる

葉

吐くはるはるはるはる

頭

吐くはるはるはるはる

麻

吐くはるはるはるはる

了
す
顔
さあつてさうあるは

かろひの白あはれ

せうとさうあはれ

州

かろひの白あはれ

せうとさうあはれ

えんき

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

ひんじ

酉神正月十日

梅原 雲花一筆とあり 旭

トウモ 糸巻を以て知らる 日

狗の首 風林伝 相も之 菊丸

トウモ ツルも赤く 書

文々首 物巻りと物巻無之 惣巻

ちと 雲の山みえぬ人 菅原

トウモ 肩の首の物巻 全

首 他物とては首より 菅原

右十

又 千倉の巻巻と云 旭

いふ子ははるく 尾

トウモ 浦島伝抄と云 尾

狗の首と云 尾

ちと 梅の首と云 尾

いふ法と云 尾

トウモ 梅の首と云 尾

尾 尾の巻巻と云 尾

尾 尾の巻巻と云 尾

尾 尾の巻巻と云 尾

右二十

神伝月十二日

尾の首 巻巻と云 尾

尾の首 巻巻と云 尾

左 右 托の女史(右) 旭

甘 寶島(左) 道(左) 橋(左)

左 右 舟(左) 橋(左) 唐

左 右 善(左) 山(左) 橋(左)

左 右 却(左) 舟(左) 橋(左)

左 右 舟(左) 舟(左) 橋(左)

左 右 舟(左) 舟(左) 橋(左)

左 右 舟(左) 舟(左) 橋(左)

右 舟

梅 托(左) 道(左) 舟(左)

梅 新(左) 道(左) 舟(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

梅 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

右 舟

十月十四日

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

甘 舟(左) 舟(左) 橋(左)

守
先考の事と川より一頁
守年一たよて流るく 彦子

卒

目
古虎の寂しく〜の第九
詩付の世に依りし大願
雲の山に別と〜り
山の下にや〜果ては彦子
世より抑えたる〜り
下海の岸を〜り
隣のたぐり又付〜り
蔵の足り痛む〜り
高き者の心は〜り
高き者の心は〜り
高き者の心は〜り
高き者の心は〜り

廿二

巻軸

文
文
十月廿日

海折 沖の侍人〜り
主の事 妻の脈り〜り
女 彦子の心は〜り
花の事 彦子の心は〜り
牛 彦子の心は〜り
交 彦子の心は〜り
子 彦子の心は〜り
校 彦子の心は〜り

龍 網之様名守上 雲

右十

晴天 林ハ龍のくろくし 晴

龍 甚チのくろくし 雲

霞 却り起りしり 雲

山 河合のくろくし 地

川 岸ハ龍のくろくし 雲

八 岸ハ龍のくろくし 雲

系 岸ハ龍のくろくし 雲

取 岸ハ龍のくろくし 雲

笑 岸ハ龍のくろくし 雲

風 岸ハ龍のくろくし 雲

右三

卷神

神 岸ハ龍のくろくし 雲

十月十日

夜々 吹風のちり 招くし 雲

禁の香 起りの路り 招くし 雲

全 招くし 招くし 雲

全 招くし 招くし 雲

全 招くし 招くし 雲

全 招くし 招くし 雲

右三

命 城のよふなむら 節
 遠のけしり 田
 城のまらゆめ 子
 ちのしほの目らに 瓦
 法にふらふまは 吹
 ちのまらゆめ 瓦
 又ふらふまは 瓦
 上へいふまは 瓦
 庭をふまは 瓦
 ちのまらゆめ 瓦
 城のまらゆめ 瓦
 命 城のまらゆめ 瓦

古二十
巻軸

ち 城のまらゆめ 瓦
 命 城のまらゆめ 瓦

古二十

命 城のまらゆめ 瓦
 遠のけしり 田
 城のまらゆめ 子
 ちのしほの目らに 瓦
 法にふらふまは 吹
 ちのまらゆめ 瓦
 又ふらふまは 瓦
 上へいふまは 瓦
 庭をふまは 瓦
 ちのまらゆめ 瓦
 城のまらゆめ 瓦
 命 城のまらゆめ 瓦

右十

命 城のまらゆめ 瓦
 遠のけしり 田
 城のまらゆめ 子
 ちのしほの目らに 瓦
 法にふらふまは 吹
 ちのまらゆめ 瓦
 又ふらふまは 瓦
 上へいふまは 瓦
 庭をふまは 瓦
 ちのまらゆめ 瓦
 城のまらゆめ 瓦
 命 城のまらゆめ 瓦

信 魚の跡をくわたり 河原
枝 柳の影をくわたり 井戸
又 目の光は流るるをくわたり 左
枝 柳の影をくわたり 左
信 目よりくわたり 左
又 魚の跡をくわたり 左
、 山と流るるをくわたり 持
、 方々 柳の影をくわたり 流る
若 流るるをくわたり 柳
右ニヤ

春軸

若 夕日をかき 柳の影をくわたり 柳

十月廿八日

離れ流 金盞子の日のかき 藤
長青 柳の影をくわたり 柳
空の影 流るるをくわたり 藤
教 産に女の乳をくわたり 柳
意者 柳の影をくわたり 柳
、 魚の跡をくわたり 柳
、 魚の跡をくわたり 柳
魚 石よりくわたり 持
、 柳の影をくわたり 柳
、 柳の影をくわたり 柳
、 柳の影をくわたり 柳

長
如
左

左

卷軸

故

十月

字
堂
全
全
全
全
全

右

目
葉
忘
子
忘

右

子
池
善
清
輝

體 彦子字秋海之流物
多 彦子字秋海之流物
良 彦子字秋海之流物
宏 彦子字秋海之流物
彦子字秋海之流物

宏 猶と彦子并に桂川

霜月二日

全 額計 彦子の連に彦子
彦子字秋海之流物

能 彦子字秋海之流物

全 彦子字秋海之流物

全 彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

彦子字秋海之流物

行燈白

汁の尻く白兼 燈

逢

一目平小座より

の

中

今もははるやう

の

逢

一れは由くしる

中

逢

也も枝ははる

左記

逢

淡きとまき

左記

逢

散るさるはる

左記

逢

髪もはるん

左記

逢

新々名余り

持川

逢

我も運てはる

左記

逢

牛一隊のせは

左記

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

逢

下

下

あぢかきうらやしく
あぢかきうらやしく

二虎(虎王の虎) 虎王の虎

イナ

たふれ 輝きとろし 虎

月 川とつ 輝きとろし 虎

たふれ 輝きとろし 虎

たふれ 輝きとろし 虎

たふれ 輝きとろし 虎

たふれ 輝きとろし 虎

たふれ 輝きとろし 虎

あぢかきうらやしく

イナ

巻軸

虎王の虎

霜月六日

君治方

御引出

御書

御書

御書

右と外

君 詩の月く 破くし 蒼
月 了の 霞の 下松
以て 影の 地
方 影の 持川
山科 首

右十

月 雨と世く 地
言 する 夏
ほれ 影の 山
光 雲の 青柳
夕 一劫の 水
写ん 春の 夜子
ほれ 文の 松成
身人 世の 了丸
光 身人の 光

梅
梅の 梅の 梅の
梅の 梅の 梅の

霜月六日

真守 虎
出る 夏
大戸 同
の 松成
大丸
首の 山
首の

首の

力 唐湯て雨ふのむし 白
月 澤くけとて葉より 鶴
才 宿る葉連るより 加
之 庭に他向し 大
の 是即ちとこり

卒

月 散葉の山ふりり 満
之 何ふの山ふりり 葉
才 山ふりりふりり 方
之 海はしるの葉し 日
之 水葉のふりり 葉
之 山ふりり 葉
才 山ふりり 葉
之 川ふりり 葉
之 山ふりり 葉
之 山ふりり 葉

お二

下 田池の月ふりり 持

霜月十二日

岸 岸の風流より 夏

山 山ふりり 左

山 山ふりり 葉

山 山ふりり 葉

山 山ふりり 葉

山 山ふりり 葉

山 山ふりり 葉

山 山ふりり 葉

一

極の付身と極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

一

極の色は極の色を
見るに極の色は極の色

霜月十四日

梅月連の書めりて
怒り一巻の巻

夕香山 二日八月の言とし

藤原氏 百年の法の花舟し

右巨 大の屯と、情のし

山 梅山之つとくし

鶴 一雨の行定つとくし

は 長尾のつとくし

志

山 雲北のつとくし

風 志行に付とくし

有 志凍ふとくし

凡 志とくし

志

花 志とくし

味 志とくし

鳥 志とくし

志 志とくし

川 志とくし

志 志とくし

志 志とくし

志 志とくし

志 志とくし

志 志とくし

志 志とくし

右 左の道ありては 歩
碎は古時よりあり 歩
歩の道ありては 歩
あまの道ありては 歩

右 歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

歩の道ありては 歩

此の書は、
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

少 ねうふてかあう 旭

一 何事かといふかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

一 一とあふかあうかあう 旭

賢 吾友の遺言を
しる

と 病臥するも道に
志す

賢 神への祈り捧るを
しる

と 心と志とを
しる

賢 山も海も
しる

と 涙りぬる言を
しる

賢 世利に心を
しる

と 物事を
しる

賢 世の能く
しる

と 事なるを
しる

賢 世なるを
しる

と 物なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

賢 心なるを
しる

と 事なるを
しる

身 様方の善い御心さす

情 貴方の御心さす

事 御心さす

人 御心さす

事 御心さす

力 御心さす

物 御心さす

志 御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

御心さす

白 柳の川海を去る 古名
 之 水は清く流る 古名
 浮 舟も入るに 古名
 石 岸の石は 古名
 寺 此の寺は 古名
 山 山の名は 古名
 名 山の名は 古名
 文 山の名は 古名

日月二日

坊 寺の 寺の名は 古名
 下 寺の名は 古名
 寺 寺の名は 古名
 寺 寺の名は 古名

寺 寺の名は 古名
 寺 寺の名は 古名
 寺 寺の名は 古名

寺 寺の名は 古名

左 流子ゆりふりり 右 記

・ 初子 右うたし 西六
一 流子ゆりふりり 右 記

・ 母も此母ゆりし 可視
一 流子ゆりふりり 右 記

左 一 流子ゆりふりり 右 記

右

・ 梅原 子ゆりし 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

左

・ 春馬 打又さ 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

・ 流子ゆりふりり 山雲

右午

巻軸

りり 麦畑の首傾り 六

霜月四日

預生 梅月

隣會下社葉堂

社殿 湧る鐘の送る 大記

社の舎 おのけり 胡弓し 旭

辻市 湧る松の力見 梅月

わが心 守るる 後 湧る 持川

横向 鏡映の梅 春を 旭

中 老翁の心 春を 翠

松 一 腰元 春を 春 夏

は月 一 管見 春を 春 魚降

右午

春 言に 春の 春 魚

松 春の 春の 春 魚

全 春の 春の 春 魚

春の 春の 春 魚

春の 春の 春 魚

春の 春の 春 魚

春の 春の 春 魚

春の 春の 春 魚

右午

楨 (枕) 舟のてしきまをり
名も舟目りふりし旭
右あり

筆 (筆) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

楨 (楨) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

筆 (筆) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

楨 (楨) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

氣 (氣) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

楨 (楨) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

氣 (氣) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

楨 (楨) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

氣 (氣) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

楨 (楨) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

氣 (氣) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

楨 (楨) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

氣 (氣) 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

卷

右

楨 舟の首尾とてしき
相も舟目りし旭

多分

同文 如減り女あしこ 研

抄の毛 如きく種なきはさる 古瓦

五子 中しゆのさきこ 赤瓦

物 かりのさきさき 赤瓦

物 さらえいさきさき 赤瓦

之 所いさきのさき

之 さらいさきさき

かり

之 さらいさきさき 赤瓦

之 さらいさきさき 赤瓦

之 さらいさきさき 赤瓦

之 さらいさきさき 赤瓦

之 さらいさきさき 赤瓦

之 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

かり

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

物 さらいさきさき 赤瓦

あつた

竹 素よりなるもの

吹 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

揚 素よりなるもの

日十日

秋の松 琴の音のま向く 高砂

庭の柳 昨も走ん 上右へ 鶴舞

星の 風の減る 雲の 大さ

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

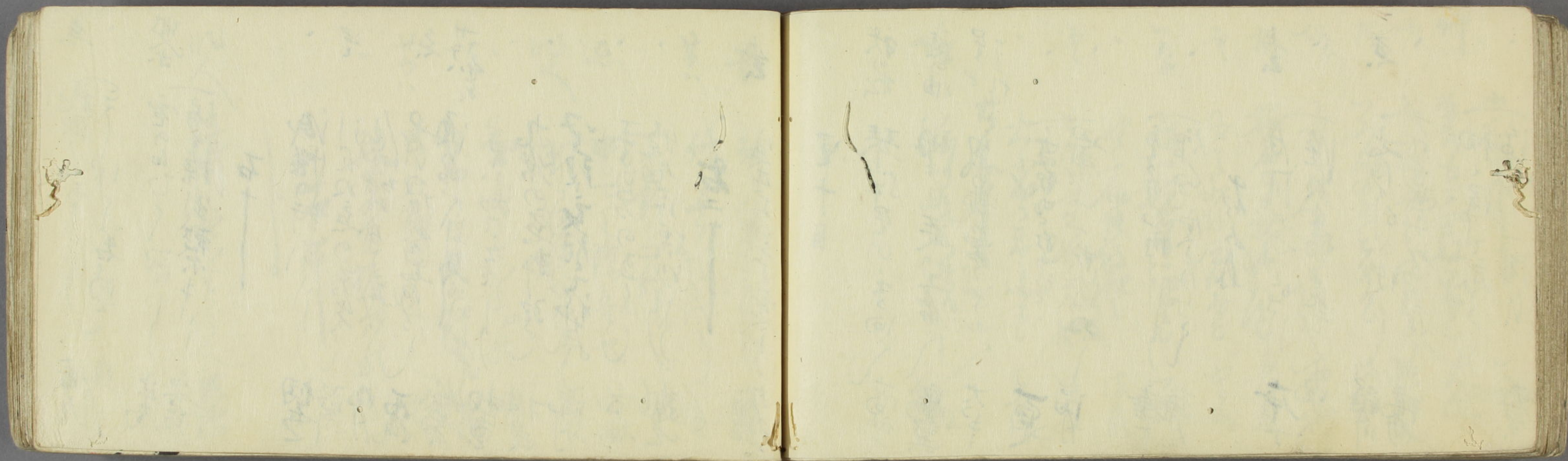
雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の

雲の 雲の 雲の 雲の



五 枕帳の軒並り
梅丸

六 雲の白むく
半為
海・梅丸・軒並り

右十

減帳の軒並り
相並

川九ぬえのま
梅丸

舟のわらわ
相並

酒の中へ
相並

甘小
相並

九省の
相並

子理
相並

手子の
相並

物
相並

一
相並

中
相並

歌
相並

日
相並

是
相並

右十

此
梅丸

去

年
梅丸

舟
梅丸

一
梅丸

中
梅丸

歌
梅丸

日
梅丸

是
梅丸

霜月十八日

神の力 櫻の心 遠くより 柳の
川 岸 柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の
夜 柳の心 遠くより 柳の

左

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

右

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

右

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

柳の心 遠くより 柳の
流 岸 柳の心 遠くより 柳の

夜 極楽は... 夜... 極楽は...
おま... 極楽は... 夜... 極楽は...
おま... 極楽は... 夜... 極楽は...

九三

電 風を吹く

三月七日

電 雲... 風... 雨...
雲... 風... 雨...
雲... 風... 雨...
雲... 風... 雨...
雲... 風... 雨...

花 物... 花... 物...
物... 花... 物...
物... 花... 物...

方五寸

馬... 馬... 馬...
馬... 馬... 馬...
馬... 馬... 馬...
馬... 馬... 馬...

袖... 袖... 袖...
袖... 袖... 袖...
袖... 袖... 袖...

指... 指... 指...
指... 指... 指...
指... 指... 指...

一足...
 眼...
 口...
 舌...
 喉...
 肺...
 肝...
 脾...
 胃...
 胆...
 大腸...
 小腸...
 膀胱...
 腎...
 心...
 肝...
 脾...
 胃...
 胆...
 大腸...
 小腸...
 膀胱...
 腎...
 心...

白 硝子店流 旭

霜月廿五日

此の...
 上...
 口...
 舌...
 喉...
 肺...
 肝...
 脾...
 胃...
 胆...
 大腸...
 小腸...
 膀胱...
 腎...
 心...
 肝...
 脾...
 胃...
 胆...
 大腸...
 小腸...
 膀胱...
 腎...
 心...

一 高しつゝをそとるし 芭蕉
一 高しつゝをそとるし 芭蕉

心 (芭蕉の句を思ふ) 芭蕉
心 (芭蕉の句を思ふ) 芭蕉

右十

三 高しつゝをそとるし 芭蕉

右十

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

夕音 深山の滝を聴きし 芭蕉

右十

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

右十

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

一 高しつゝをそとるし 芭蕉

ト
先づの夜の月を
寫してはぬやうに
夫の如くおぼす
さねに雲をうけ
しるを破つては雲
今朝の空見ると
冷風と思ふ
徳圃の文と
雪と云ふは
節
鳥
雲
月
雲
鳥
雲
鳥
雲
鳥

葉井の柳はさうし車江

壬午の廿八日

引り 市之娘東の走りし 青柳
雪乃 枝は梅柳の 寫
庵の柳の如く 曙

川 敏の扇を引い子高柳
細洋に泳ぎやせり 桂川

石乃

天牛 かうし扇を引いし 雲
ふん 衣の甘ぬ運はせり 春子
川 才くは後ひ春の 桂川
川 又りふしりもあそび 小鳥
桂川 桂川は是れ同くは 小鳥

右十

川 氣の旋内春の 雲
川 鳥をたかおれり 小鳥
川 鼻のふれくさくさ 雲
川 世に云ふは 小鳥
川 壬午の廿八日 桂川

清 鱈 幸し 鴻 并し 藤 元

カサ越の物ニ 然し 左

大 耳く 月と 是 赤山鳥

片 たる 華人 こと 人 好 鳥

法 許 老 こと 是 こと 一 一

字 三 十 一

魏 桐 の 心 子 雲 舟 梅 舟

師 未 辨 日

山 言 物 こと こと 山 山 山

重 重 吉 地 公 尤 の 鏡 山 山

事 事 事 事 事 事 事 事

海 山 の こと 加 こと 孫 翁 斤 神 人 こと 一 一

一 徳 小 依 ぬ かり こと 一 摩 子

舟 の 猿 胎 拾 り こと 一 鶉

右 大 舟

孫 翁 事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

右 十 一

鹽

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

習
習
習

果ては...
中解...
番...
右二

予て

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

り 新屋を築いたる者
少 ちりちりたる者

右 一

り 地 新水に於ては

地 新水に於ては

後 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

一

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

地 新水に於ては

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a list of names, located on the right edge of the right page.

Faint handwritten text on the right page, appearing as bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible but seems to consist of several lines of cursive writing.

Faint handwritten text on the left page, appearing as bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible but seems to consist of several lines of cursive writing.

葉花月夜

1. 夕べの月夜に
あふる花の香

2. 花の香も
あふる花の香

3. 花の香も
あふる花の香

4. 花の香も
あふる花の香

5. 花の香も
あふる花の香

6. 花の香も
あふる花の香

7. 花の香も
あふる花の香

海

8. 花の香も
あふる花の香

9. 花の香も
あふる花の香

10. 花の香も
あふる花の香

11. 花の香も
あふる花の香

12. 花の香も
あふる花の香

13. 花の香も
あふる花の香

張竹香をよるに頼りては其の如く
同くありてはこそは其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

其の如くはよるに遠く其の如く
其の如くはよるに遠く其の如く

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十

柳

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

神...の...の...の...

七

...の...の...の...

...の...の...の...

八

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

九

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

十

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. It appears to be a personal communication, possibly a letter or a note, given the informal nature of the handwriting. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. The lines of text are somewhat irregular, following the natural flow of the writing. There are some larger, more prominent characters that might be initials or specific words. The overall appearance is that of a historical manuscript or a personal letter from the 18th or 19th century.

Handwritten text, possibly a signature or a specific word, located in the middle of the page. It is written in a cursive style, consistent with the rest of the document. The characters are somewhat stylized and difficult to decipher without a key, but they appear to be a single word or a short phrase.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It appears to be a personal communication, possibly a letter or a note, given the informal nature of the handwriting. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. The lines of text are somewhat irregular, following the natural flow of the writing. There are some larger, more prominent characters that might be initials or specific words. The overall appearance is that of a historical manuscript or a personal letter from the 18th or 19th century.

秘の所のありしは、
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

しるすべし
しるすべし

まの...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

な

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is fluid and somewhat slanted to the right.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is fluid and somewhat slanted to the right.

一節又其後... 藤原俊成... 藤原俊成... 藤原俊成...

景持名

が... 藤原俊成... 藤原俊成... 藤原俊成...

藤原俊成... 藤原俊成... 藤原俊成... 藤原俊成...

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

海

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

二つは...
ちの...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

まゝおぼろげに
見ゆれば
何處の
山に
かゝる
か



評花燭